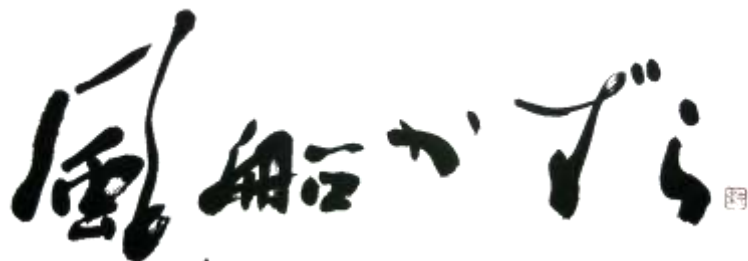


## 放送大学浜松同窓会



第10号

発行：放送大学浜松同窓会

編集：浜松事務局

発行責任者：仲塚とし子

発行：平成28年3月31日

題字は松下安延氏(雅号耕山)

seeds of heart

放送大学同窓会連合会 <http://rengokai.ouj-dosokai.net/>放送大学浜松同窓会 <http://hdosokai.web.fc2.com/>浜松サテライトスペース <http://1hamaouj.web.fc2.com/>

## 「自主的」「自発的」ということ

浜松サテライトスペース

古橋倫生

自主的・・・他からの指図や干渉によらずに、自分の意思に基づいて行うさま。

自発的・・・物事を自分から進んで行うさま。

1995年の阪神淡路大震災では、若者をはじめ多くの人々が被災地に駆けつけボランティア活動に従事しました。その後「ボランティア」という言葉も一般的となり、1995年は「ボランティア元年」と言われるようになりました。

私は、震災の約2週間後に神戸市東灘区役所に入りました。私が神戸に向かった主な理由は、ボランティア活動に参加する若者をこの目で確かめたかったからです。

当時の一般的若者像は、「自分本位で何事にも関心が薄い」「指示待ちで、人から言われたことしかできない」というものでした。しかしTVに映し出される映像は、これとは全く異なるものでした。

どんな若者が活動しているのだろうか。彼らの考えを聞きたい。彼らを見たい、話をしたい、と気持ちが高まっていきました。

彼らと接して最も印象に残ったことは、彼らが言った「自主的」「自発的」という言葉の違いでした。それは、まさしく「自主的」「自発的」な若者たちから発せられたのです。

放送大学の学生さんが自主的・自発的に学習を進めるさまに神戸が重なってきます。

## 学生募集

放送大学では、夢を実現させるべく入学される方々を心から歓迎しています。

放送大学総合受付 ☎ 043-276-5111

FAX 情報サービス ☎ 043-211-8351

放送大学ホームページ <http://www.ouj.ac.jp/>

## 放送大学同窓会東海地区大のお知らせ

浜松同窓会会長 小島 邦弘

放送大学同窓会東海地区大会が、2016年10月22日－23日の両日にわたり、静岡同窓会主催・浜松同窓会共催で三島周辺にて開催されることが決まりました。

当日は、当同窓会の平野 忠氏の講演をはじめ、東海北陸同窓会の交流パーティ、韮山反射炉の見学会、楽寿園、親水公園の散策、三島大社の歴史に詳しい坂倉会長のガイドつき三島大社参拝などの楽しいイベントを企画しています。詳しい日程は決定次第逐次、お知らせします。浜松同窓会の皆様、ぜひ多数お参加ください。宿泊、一日参加両方受けつけます。23日の平野さんの講演を含むイベントには、同窓会に未入会の卒業生、現役学生も参加できます。奮って御参加ください。

## 2016年度浜松同窓会の行事予定

—目的意識が明確な同窓会を目指して—

本年も活動の基本的な位置付けとして、在学生の就学支援＝中途退学者の減少、卒業後の大学院入学希望者に対する助言、客員教授セミナーへの参加者UPを目指します。その他、勉強の合間には会員相互交流のための楽しいイベントも企画します。それらの活動を通じて、放送大学の入学者増加、放送大学の社会的地位がUPできればうれしいです。

本年、4月より磐田学習センターが移転します。それにともない、静岡産業大学の図書館も放送大学学生にも使い勝手の良い場所になると思います。磐田学習センターもぜひ利用してください。これからは駐車場も利用できます。嬉しいことです。この件につきましては、静岡学習センターの高木所長・浜松事務所の皆様の御骨折をいただきました。深謝いたします。磐田学習センターの活性化は在学生の皆様の熱気によって決まります。ぜひ活用してください

同窓会の活動についての詳細、日程等は決定次第逐次お知らせします。奮ってお参加いただき、学位、修士号取得の栄冠を勝ち取ってください。その上、博士課程も用意されています。将来博士号取得の快挙にむけて進まれる、頼もしい仲間が出るのを夢見ております。

## 北陸・東海地区同窓会交流会に参加して

仲塚 とし子

北陸新幹線が開業し、降り立った金沢駅では、太鼓の演奏やファッションショー等がにぎやかに開催されていました。そして駅からタクシーを利用して、金沢工業大学内にある、石川学習センターに到着しました。

1日目は、藤島秀隆先生の講演と卒業生達の研究発表会が行なわれました。どの発表も地域の問題を掘り下げて、資料を集めたり統計を取り、細かな部分まで研究が進められていました。その土地ならではの特性が浮かび上がり、住む所は違っていて



も住民の意識として共感を覚える事もあり、身近な生活の中に解決策も見付けられるように感じました。

2日目は、7つの同窓会の報告会があり、最近の運営と今後の課題が検討されました。各同窓会では、研修見学会やサークル・茶話会などが盛んに行われています。会員増に伴い、運営に関する費用も増大し資金面においては、工夫が必要とされるようです。

午後は金沢城公園と能楽美術館を見学して解散となりました。金沢の歴史に触れ、金沢の町を散策し、北陸の穏やかな景色を満喫し、やっぱり北陸新幹線のおもちゃと和菓子を買って、帰りの電車に乗り込みました。

## 俳句を楽しむ

平野 忠

ゆっくりのんびり食べようよ、喋ろうよ。

切ればいいんだよ、テレビジョンを。

総選挙結果発表、世界が笑ってるよロバクで。

はいコマーシャル、何言ってるんだかそっちが心配だよ。

森が怒ってる。観てるよ、下向いている若者を。

(自由律俳句)

この5句が浜松文芸館入選

そろそろやめようよ、大食い早食い選手権。

二人でいれば温かいよ、そりみんなで集まれば。

ブームが終わったら落語、おっとまだ続いているよ。

ベ平連にベレー帽、次は歌舞伎でバンダナかい。

鈴木 朝子

銀の一尾を断たむ初厨

冬木の芽ひた生くる子の服を干し

めぐり逢うよろこびに似て雪蛍

田楽の里のご馳走よ露のとう

十字架を深空に仰ぎ今朝の春

藪下 径子

終電車降り立つ駅の花明り

長屋門くぐれば庭の芽吹きかな

星ひとつ川面に揺らぐ春の闇

添え状に桃のひと花山便り

班鳩に春の虹立つひとり旅

仲塚 とし子

さしもぐさ 食べたる子らや 苦笑い

風薫る 天空ぞ舞う 吹き流し

誘われて 広場に来けり つばくらめ

# 除福伝説

小倉 康弘

中国の公式記録官司馬遷の書いた歴史書「史記」によると、今から2222年前のBC(紀元前)219年～BC209年(尚、2222年は除福が大往生を終わった年を基準)、中国を統一した秦の始皇帝の命令で、方士除福という人が、3,000人の若い男女と五穀(米、麦、粟、黍、豆)黍の種と各分野の技術者を連れて東海の島蓬萊山(日本)へ不老不死の仙薬を求めて海を渡って来たという伝説である。

## 中国:始皇帝とは瀛

名は政。13歳で国王に即位(春秋戦国時代)38歳で中国全土を統一して国名を秦とした。自分の呼び名を光輝く天の神北極星の意味として「始皇帝」と名乗る。万里の長城(5万km)修築や文字(現在の漢字の元)、貨幣、度量衡(長さ・容積・重さ)などを統一した功績もあるが、その反面、政治を批判する罪のない学者や儒学者、方士)を谷底(鬼の谷)へ生き埋めにしたり、自分の国秦書以外の本を焼いたりした(焚書坑儒)独裁者であった。しかし、統一後15年で秦国は滅亡。地下の謎の墓、始皇帝陵は兵馬俑などで有名。中国の礎を築きあげた生みの親と讃えられている。49歳病死。

## 除福とはどんな人か

BC(紀元前)278年中国斉の除福村に生まれ(今の中華人民共和国江蘇省連雲港市韓愈県金山郷除福村)、貴族の家柄で育ち秀才でしたが、秦の政(後の始皇帝)に滅ぼされ併合し、秦の琅邪台に住んだ実在人物である。徐は姓で、名は福。斉国(海岸)の出身。1982年調査によって除福村が発見された。身分(職業)は方士(道士)といって不老長寿術を行う呪術師、祈祷師、薬剤師など神の力を持つ人。現代風にいえば、天体、気象観測、医学、薬学、健康術などのハイテク全部を持った人、エキスパート(専門家)。(BC208没70歳)

## なぜ、始皇帝が不老不死の仙薬を求めさせたのか

始皇帝は権力、宝物などなんでも手に入ったが、歳を取ると肉体が衰え、死に近づくことが悩みだったので、いつまでも長生きして権力を保とうとした。当時、神仙思想が流行し、仙丹(不老不死の薬)を飲むと不老不死になることが出来ると言われた。仙丹は、渤海の海中にある三神山すなわち蓬萊・方丈・瀛州で、そこに住む仙人が仙丹をつくり、不老不死の薬をもっていると言われていた。その薬を手に入れて飲めば仙人のように不老長寿になると言われていた。始皇帝はこの神仙にいたことがあるという方士(不老不死の薬を作る道士)除福に不老不死の仙薬を求めて参れと命じた(霊薬、仙薬、神薬、妙薬、秘薬、仙丹は同意)。三神山とは渤海に多発する蜃気楼を神山に見立てた海上神仙信仰、山岳信仰等と結び付けた海上に想定した架空の鳥山であり、仙人が住んでいる霊山と言われた。尚蓬萊山は日本であろうと言われている。

BC219年、始皇帝(40歳)が自分の作った法律が守られているか確かめるため、斉の国(山東省地方)を巡幸した時、方士除福(59歳)と会う。徐福は「不老不死の仙薬を求めて参ります。道男童女数千人連れて行くので財宝と船を用意してください。」と進言した。始皇帝は大いに喜び不老不死の仙薬を求めさせた。始皇帝永遠の権力を保つためである。

## いつ頃、誰が伝えたのか

日本には平安時代末期から室町時代にかけて貴族や僧侶が「史記」を読んで伝え、更に修験者の本拠地熊本の霊地に伝わり、熊野信仰を広めた修験者たちが全国へ伝えたのではないかとされている。しかし、最近の調査では以前から徐福伝説があった地を修験者が訪れ、その地を修行の場所、聖地として巡り布教させたのではないかとされている。

## 徐福と船の右櫓

日本に船の櫓はほとんど左櫓、徐福伝説がある場所では右櫓のことが多いと言う。中国が右櫓であることから徐福が伝えたのではないとも言われている。日本では左櫓が一般的で九州の有明海の一部が右櫓である。

### 中国から日本へ、何日かかって来たのか

最近の調査では、北コース（日本海）、南コース（太平洋）ともに秋に出航して順風であれば1～2週間で九州に着く。津軽半島へは北コース、早春から初夏にかけ南西風を利用して中国出航…韓国の済州島…九州南・西岸…対馬海流に乗って日本海を北上、約3～4週間である。南コースは冬、春北風を利用して中国出航…太平洋沿岸各地。北、南コースとも大体同日数。

### 日本人に何を伝えたのか

漁法、航海術、建築、織物、鉄工、造船、製紙、農業、稲作、酒造。徐福は日中韓を結んだ「幻」のエリート集団のリーダーであり、国交の始祖であり、ロマンのひとである。

### 徐福の変名

「徐」の名では命を狙われるから中国では、王、劉、韋。日本では、秦、羽田、波多、福岡、福島、畑、福山、福田等の姓を名乗る。秦国が滅亡したため徐福達は、後難を恐れたのです。



山西省靈境村の高山植物

### 最近判った渡来の動機

徐福は、秦の天下統一によって自分の斉の国が滅ぼされ、徐家とその一族が抹消され悪政に苦しむことは明らかであった。それを察知した徐福は、神仙思想に没頭している始皇帝の長寿欲求を巧みに利用して、巨額の資金を出させ始皇帝をあざむいての大冒険であり、集団亡命であった。前途有望な若者数千人を引き連れて新天地開拓のため永久のユートピアを東海の国日本の神仙境に求め、一大決心で集団移民したと言われている。

### 徐福の伝承地

航海は風まかせ、潮まかせだったので、上陸地も様々、船団も別れ別れになった。秋田の男鹿半島、京都、山口祝島、福岡、佐賀、鹿児島、宮崎、和歌山、三重、愛知、東京の八丈島、静岡、山梨富士吉田、北海道上富良野町など30箇所以上に分布しています。

【青森県・中泊町水産観光課発行パンフレット「徐福」】その他の資料参考

## 2回目の再入学

鈴木眞喜子

同窓会員の皆様のなかには、卒業後に再入学されている方も多と思います。全コース卒業もおられるようです。私は、2006年度に「生活と福祉」専攻で何とか卒業することができました。その後再入学しましたが、単位が足りず卒業することができませんでした。幸い同窓会が設立され同窓生、学生の皆様との縁は切れず学生のときと同じくサテライトに出かけたり、講演会、研修旅行など卒業をめざし頑張ってきたときには参加することができなかつた行事にも参加することができ、学生気分？を味わってきました。このまま、同窓会活動だけ続けようかと思いましたが、昨年の研修旅行で訪れた徳川美術館で国宝・源氏物語絵巻を鑑賞したときその素晴らしさとともに源氏物語についての知識のなさに気がつきました。少し古典文学について学ばなくてはと思い「人間と文化」コースで再入学することにしました。得意分野ではありませんが、少しずつ単位を取っていきたいと思います。

## 【二胡の演奏】

小林正孝

『音楽のまち』や『楽器のまち』と言われる浜松に、長く住みながらほとんど楽器に触れることはありませんでした。

孫たちがピアノやヴァイオリンを習い始め、【発表会】に妻と出掛けてその素晴らしさを感じる度に、自分も何か弾けたらと思っていました。しかしながら古稀を目前にし、楽譜も読めない自分にできる楽器があるだろうか？としばし思案したものです。その時頭に浮かんだのが《中国の楽器・二胡》で、満州の奉天(現瀋陽)で生まれた引き揚げ者でもあり、何か因縁を感じていました。最初、浜松の駅前にある【カワイ音楽教室】の、二胡初学者コースに入学し、全くの基礎から習い始めました。一年で初学コースを修了し、縁があり《なゆた浜北》で活動中の【二胡サークル同好会】に、入会させていただきました。琴の師範でもある古橋先生と四名の生徒で、月二回楽しくレッスンを継続し、丁度三年になります。よく《二胡と胡弓は同じですか?》と聞かれますが、似ていて異なるものです。二胡は《二本の弦の間に弓の毛を通して弦をこする》という擦弦楽器で、独特のスタイルで演奏します。

一方、富山県の有名な祭り《おわら風の盆》などで知られる日本の胡弓も同じ擦弦楽器ですが、楽器の形は三味線と似ています。弦を三本張り、ヴァイオリンなどと同じように弓を弦の上側から当てて音を出す点で、二胡とは全く異なります。また音楽には楽譜は不可欠ですが、通常の五線譜ではなく、数字で表された『数字譜』を使用します。この数字譜は、七つの数字で音程を表しており、楽譜が読めない自分にとっては大変分かり易く助かりました。但し、最初D調から習い始めて現在はG調ですが、更に上達するとF調やC調などを習うことになります。そして左手で弦を抑える指使いのことを『運指』と言いますが、それぞれ第一・第二や第三ポジションなどがあってなかなか複雑です。

二胡を習い始めて丸四年になりますが、一昨年に地元の吾妻自治会を皮切りに、去年は隣の漆島自治会、そして今年は橋爪西及び上大瀬自治会の【敬老会】で演奏を行いました。日頃は狭い教室での練習ですが、成果の発表の場としてこのような機会は非常に貴重で、これからも近隣の自治会にお願いして、長く継続していきたいと思っています。特に今年は前述の通り、箏曲の師範でもある古橋先生の琴と、我々六人の二胡との《合奏》で、《シルクロード》など八曲を演奏しましたが、なかなか迫力があって皆様からも大変好評でした。

音楽のある生活は楽しく、時折来宅する孫たちとも共通の話題になって、適度な張り合いにもなっています。これからもできるだけ長く、《二胡》という中国楽器と関わりあっていきたいと思うこの頃です。

\*添付写真のコメント

九月に上大瀬自治会の【敬老会】で、琴と二胡の合奏を行いました。演奏中の様子と、終了後の出演者、及び【敬老会】出席者の方々との記念撮影です。



# 会員紹介

本年度も多くの方が浜松同窓会に入会されました

名 前	住 所	名 前	住 所	名 前	住 所
鈴木 眞喜子	磐田市	仲塚 とし子	磐田市	安松 和男	浜松市中区
後藤 淑子	浜松市東区	小笠原 敏弘	浜松市中区	松下 安延	浜松市北区
大石 純子	浜松市中区	小倉 康弘	浜松市中区	萩原 利行	掛川市
岡本 康子	浜松市南区	古橋 達也	浜松市北区	小島 邦弘	浜松市南区
平成 22 年度入会		山本 勝司	島田市	中村 岩子	浜松市西区
鈴木 正男	浜松市北区	鈴木 民江	浜松市浜北区	赤堀 庄司	掛川市
小松 武夫	浜松市浜北区	長嶋 孝行	御前崎市	馬淵 和美	浜松市中区
横田 典子	田原市	豊田 宣子	湖西市	鈴木 尚	豊橋市
藪下 径子	浜松市東区	井口 徳久	浜松市南区	澤木 宏子	浜松市中区
小宮山 ひろみ	磐田市	大島 充裕	浜松市西区	服部 昭子	袋井市
松本 健太郎	豊橋市	小田切 さつき	浜松市東区	河合 京子	浜松市中区
柘本 裕士	浜松市天竜区	鈴木 通代	浜松市西区	鈴木 朝子	浜松市中区
尾藤 登	浜松市東区				
平成 23 年度入会		松本 幸子	磐田市	大坪秀雄	浜松市天竜区
藤城佐知子	田原市	本多 佳子	浜松市南区	太田浩一	浜松市浜北区
林本和俊	浜松市中区	久米 定夫	浜松市中区	小宮山眞知子	浜松市中区
平野正樹	浜松市浜北区	井口 麗子	浜松市中区	朝比奈裕美	島田市
河合勝仁	浜松市中区	小林 正孝	浜松市東区		
平成 24 年度入会		柴田 健市	焼津市	平野 忠	愛知県新城市
坂本 政則	浜松市浜北区	鈴木 敏美	浜松市西区	紙谷 稔	浜松市浜北区
石塚 健一	浜松市中区	佐藤 剛	磐田市	早崎 浩子	島田市
伴 純雄	湖西市				
平成 25 年度入会		渡辺 晴俊	浜松市東区	近藤 千恵子	浜松市北区
平成 26 年度入会		齋藤 善彦	浜松市中区	鈴木 佑吾	豊橋市
田中 久子	浜松市東区	葛原 通夫	掛川市	黒田 容美	浜松市浜北区
鈴木 みづほ	浜松市中区	川口 麻紀子	浜松市東区		
平成 27 年度入会		永田 みよ江	田原市	植田 典子	浜松市
柴田 浩后	浜松市	鈴木 清美	磐田市	山田 健茲	浜松市
丸山 穰	掛川市	高木 茂明	川根本町	越川 一美	豊橋市
橋本 幸子	磐田市	神戸 幸江	菊川市		

編集後記



俳句の欄が加わり誌面を賑わせています。皆様も何げなく感じたことなどを俳句にしたためて、是非お寄せください。東海・北陸地区合同研修会が三島で開催され、日頃の研究の成果が発表されますので、皆様もご参加ください。